

令和7年11月28日

No.9



発行責任者
校長 有崎 美紀

自ら伸びる



府中中央小学校ホームページ <http://chuosho.fuchu-town.ed.jp>

「学校へ行こう」週間～地域と共にある学校～



広島県では、開かれた学校づくりを推進する取組として“学校へ行こう”週間を「ひろしま教育ウィーク（11月1日～7日）」で実施しています。本校では、11月4日～7日の4日間、保護者参観や地域参観、科学研究入賞作品の展示や学校運営協議会、学習発表会を実施し、自ら伸びる子どもたちの様子や学校の取組を公開したり、子どもたちの教育について一緒に考えていただく会を開催したりしました。子どもたちの姿で本校の教育のありようを問いました。

学習発表会～創り出そう『生きた言葉で』 感じ取ろう『生きた言葉を』～

たくさんの保護者や地域の皆様に子どもたちの発表を観ていただきました。6年生が司会をしたり、感想を自分の言葉で語ったりするとともに、それぞれの学年が練習の成果をしっかりと出しきり、達成感がいっぱいでした。

【学習発表会を終えての校長の話】

はちの子のみなさん、感動をありがとうございます。君たちの言葉は生きている。そして力がある。

口から発する言語だけでなく、歌、合奏、身振り、そして、このような静寂すらも、心搖さぶられる言葉であると感じました。一人一人が、「こうありたい」と理想とする姿に向かって、伸びて行こうとする、その姿勢こそが人間として美しいとも感じました。本当にありがとうございます。

保護者のみなさま、地域のみなさま、今日の子どもたちの姿はいかがでしたでしょうか。

本校の学校教育目標は、「自ら伸びる」としています。子どもたちを植物に例えると、とかく伸びているところは目に見えるところ、「葉は伸びたかな」「茎は伸びたかな」「花は咲いたかな」、そこに目が行きがちですけれども、今日の6年生の歌の歌詞にあったように「大切なものは隠れて見えない」のです。植物で言えば、土の中にある根っこです。そこをぐっと伸ばしていこうとするのが、本校の教育方針でございます。

今日は子どもたちがしっかりと人間としての根っこを張りつつ、伸びている様子を見ることができました。子どもたちがしっかりと根を張ることのできるよう、日ごろから温かい土壤の役割を果たしてくださっている保護者のみなさま、地域のみなさまに心より感謝をいたしますとともに、これからも一緒に子どもたちを見守っていただければと思います。よろしくお願ひいたします。

さて、はちの子のみなさん、今までの取組を通して、「自分はなかなかやるな」という自信と、「みんなで創り上げるってたのしいな」という共感を得てくれると嬉しいです。自分と自分を取り巻く仲間をしっかりと褒めてあげましょう。

1年 泣いた赤鬼

どこまでも
きみのともだち

3年 スーホの白い馬



白馬、どんな時で
も、ぼくはお前と
一緒にいるよ。スーホ
スーホの白い馬♪

5年 「やなせたかし」から学ぶ ～本当の勇気・希望とは？～

いつでも強い信念をもち、
傷ついた人たちに希望を
与えられる人になりたい。



ブレーメンの音楽隊
みんなで仲良く暮らします♪

2年 みんなで伸びていくのだ！！ ～はちの子 ライク フレンズ～



教室は間違うところだ
間違うことを
おそれちゃいけない

4年 10さいの集い

支えてくれている人の思い
を大切にして、大人に向け
て頑張っていきます。



『平和』の世界をつくる
ために、これから私たちにできること！

6年 「平和」だから楽しめる！ PEACE(ピース)カバラダイス オーケストラ



【児童代表 終わりの言葉】

6年 代表児童

本日は、お忙しい中、学習発表会にお越しくださいありがとうございました。今年度は、学習発表会のテーマを「創り出そう『生きた言葉』で 感じ取ろう『生きた言葉を』」として、各学年が日々練習を重ね、協力して創りあげてきました。発表はどうでしたか？どの学年も練習の成果を発揮し、保護者の皆様や地域の方々の温かいまなざしに支えられ、最後まで一生懸命頑張ることができていたと思います。ありがとうございました。

私達6年生にとっては、最後の学習発表会でした。1学期に自分達で合唱曲を選んだり、楽器担当をオーディションして決めたりしました。夏休みにはサポーターの方に教えてもらいながら合奏の練習もしました。最初はなかなか皆の息が合わず、リズムがバラバラでしたが、練習を重ねるごとに1つの音楽を奏でることができ、きれいに揃った時は、とても嬉しくて感動しました。合唱曲「いのちの歌」は、1学期の平和祈念公園での碑めぐりや久蔵寺の住職さんの話など、戦争や平和について学んだことと繋がっています。また、これまでずっと育ててくれたお父さんやお母さん、見守ってくれたたくさんの人達への感謝の思いとも繋がっています。命を大切にしたいといふ思いと育ててくれている人達への感謝の思いが届くように心を込めて歌いました。今日、その思いが届いていたら嬉しいです。

いつも寄り添ってくれる先生方、いつも仲良くしてくれる友達、毎朝私達が安心して通えるよう見守りをしてくださっている地域の方々に囲まれて、これまでずっと頑張ってきました。今日は、皆で一生懸命練習してきたことを精一杯出し切ることができました。やりきったという思いもあるけど、さみしいなという気持ちでいっぱいです。

残り少ない小学校生活を全力で楽しみ、一つ一つの行事を自ら創り、最後までやりきって、あこがれのリーダーとしてみんなを引っ張っていけるように頑張っていきます。本日は本当にありがとうございました。

第2回学校運営協議会～学校と地域で創る学びの未来～

11月6日（水）に、今年度2回目の学校運営協議会を開催しました。保護者や地域の方で構成された委員さんと教職員で、授業参観の後、学校自己評価（中間報告）をもとに本校の教育活動について熟議をしたり、子どもたちの様子について情報共有をしたりしました。今回いただいたご意見を反映し、今後の本校の教育活動がよりよいものとなるよう問い合わせていきたいと思います。



直していきたいと思います。なお、学校評価表の詳細につきましては、本校のホームページ（<http://chuoshio.fuchu-town.ed.jp>）に掲載していますので、ご覧ください。会の内容につきましては、本通信の最後に掲載しております。

【ご感想・ご意見】（一部紹介）

- 中間報告で、「まなざし」という言葉をたくさん聞いたが、それだけ教師が子どもを見る「まなざし」の研鑽を意識しているということが分かった。地域の一員としても、子どもたちに温かい「まなざし」を向けていきたい。
- 学校でやること、家庭（保護者）でやること、地域でやること等、みんなで協力してやっていくことが大切。たくさんの人たちで話し合う場があるとよい。
- 「力を付けるためにどうするの？」ではなく、「学んだ結果が力」である。力を付けることばかりに目を向けるのではなく、どう学んでいったかの途中経過を大切にしていきたい。

グリーンエコーズによるハーモニカ演奏会～素敵な音色に魅せられて～

11月11日（火）に1年生、また11月27日（木）には6年生を対象に、府中南公民館で活動されているグリーンエコーズの皆様によるハーモニカ演奏会を開催ました。たくさんの種類のハーモニカを使って、子どもたちが知っている曲（さんぽ・もみじ・虹等）を中心に演奏していただきました。子どもたちはハーモニカの演奏に合わせて歌ったり手拍子をしたりして、素敵なものでした。「これまで私達が演奏したことのある曲でもハーモニカで演奏すると雰囲気が変わったんだなと思いました。」と6年生が演奏者の皆さんに感想を伝えていました。グリーンエコーズの皆さん姿から、暮らしの中に音楽がある幸せを受け取りました。



安芸郡小学校陸上記録会に出場しました～全力を出し切って～

11月1日（土）、東広島運動公園において、第41回安芸郡小学校陸上記録会が開催され、本校からは5・6年生15名の子どもたちが参加しました。

陸上記録会に向けて、児童は府中緑ヶ丘中学校陸上部の岩崎コーチにご指導いただきながら、練習をしてきました。それぞれが自分の目標とする記録を更新するために懸命に練習を重ね、記録会当日はベストを尽くすことができました。

【結果】

個人情報のため掲載しません。



児童主体の防災キャンプ ~みんなの命を守り、防災意識を高めたい~

11月21日（金）に、緑ヶ丘中学校区三校合同研究会（緑ヶ丘中・南小・中央小）を行いました。本校では、5年生が総合的な学習の時間「防災～ともに生きる～」の学習を公開しました。子どもたちは、府中町危機管理課や消防本部等の方々をゲストティーチャーとして招き、地震や豪雨災害の様子や災害救助（ハザードマップや避難所、防災備蓄倉庫等）について、1学期から学んできました。それらの学習を通して、「自分たちには何ができるのだろうか」と考え、「自分たちが学んだことを基に保護者や地域の方の防災意識を高めたい、共助の意識を高めたい。」という目的意識が芽生え、子どもたちが主体となり、保護者や地域の方々を対象に防災キャンプを開きました。みんなの意識を高めることで、1人でも命を落とす人が減ってほしいと振り返っていました。



親睦を深めた安芸地区PTA親善ソフトボール大会

11月22日（土）に、海田総合公園町営野球場において、安芸地区PTA親善ソフトボール大会が開かれました。保護者や地域の皆さんと先生たちが40名近く集まりました。結果は2勝1敗でしたが、試合を重ねるごとに一体感も生まれ、チームワークも高まり、選手も応援団もいい汗を流すとともに、親睦も深まりました。



「じまんの俳句」代表作品

今月は、自由投句でした。やっと訪れた秋の様子、おいしい秋の味覚、お月見など、たくさんの俳句が集まりました。今回は特に、高学年に優秀な作品が集まり、選ぶのに苦労しました。うれしい悲鳴です。

<p>さとやまの あきのいろだね ひがんばな</p>	<p>「さとやま」という言葉から、のどかな田舎の風景が目に浮かびます。町の中ではなかなか見られませんが、少し田舎に行くと、真っ赤な彼岸花が、まるでじゅうたんのようにならんで咲き誇っています。「ごんぎつね」にもこうした風景が出てきますね。</p>
<p>力 プラ でね 積み かさね て いく 友情 も</p>	<p>五年生は先日、江田島に野外活動に行きました。そこで、カープラという競技をしました。このカープラは一人ではできません。みんなで力を合わせないとできません。カープラが積み上がりしていくのと同時に、友情も深まっていく。そんな様子を表した俳句です。「友情も」と締めくくっているのが効果的な作品です。</p>
<p>六年 代表児童</p>	<p>○○さんは、彼岸花を見たのも、きっとこんな風景だったのでしょうか。秋といえどサンマ。サンマを詠んだ俳句も多く集まりました。○○さんの俳句には、「ポンず」が使われていて、他の作品とは一線をかくす作品となりました。ポン酢という音もいいし、まるで自分が食べているかのように、口の中にサンマとポン酢の味が広がっていくようです。秋の味覚であるサンマが、ポン酢のさわやしさと共に表現されています。みなさんは、もうサンマを食べましたか。</p>

☆☆☆おめでとうございはす☆☆☆

☆第 17 回 MOA 美術館安芸郡児童作品展

個人情報のため掲載しません。

☆府中町人権啓発書道コンテスト

個人情報のため掲載しません。

☆令和 7 年度租税作品コンクール

個人情報のため掲載しません。

☆第 36 回伊藤園「おーいお茶」新俳句大賞

個人情報のため掲載しません。

☆府中町ポップコンテスト

個人情報のため掲載しません。

☆第 27 回筆の里ありがとうのちょっと大きな絵てがみ大賞

個人情報のため掲載しません。

第2回学校運営協議会 報告書

開催日：R7.11.06(木)9:15-11:30

文責：曾余田順子・R7.11.08

1 学校長の学校経営観：有崎校長より

- ・今年度は、若い先生（主任）を中心として取り組んでいる。
- ・先日、広島県小学校理科教育研究大会を本校で開催した。「理科を」ではなく「理科で」本校のめざす教育を、というスタンスで行った。子どもの学びに向かう目が、教師を育ててくれている。「こうあらねばならない」を呼び覚まされる公開だった。
- ・「まなざしの研鑽」に関して、若い先生が子どもとの距離感を問い合わせ中で、教育に携わる姿勢を問い合わせ、ということが起こっている。
- ・69人の教師一人一人を見る校長のまなざしが鍛えられる。同僚に向けるまなざしを、校長である自分自身も問い合わせていきたい。

2 学校参観および学校評価の説明

学校参観の後、学校経営計画について、主任・主幹・教頭より中間評価として、どのように自己評価し改善しようとしているかの説明を受けた。

☆各柱の説明：各主任

- ・柱a：枝正教務主任
- ・柱b：綿貫研究主任
- ・柱c：森本生徒指導主事・亀竹保健主事
- ・柱d：下田主幹教諭

☆学校の方向性に照らしての問い合わせ：白石教頭

3 学校運営協議会委員による熟議

(出席者) 曾余田・松本・田中、濱田(PTA)、小濱・大場・竹原(CS事務局)、

有崎・白石・下田(府中中央小学校) (※相星(府中緑ヶ丘中学校長)：途中退席)

(陪席) 枝正教務主任、森本生徒指導主事

☆第2回学校運営協議会の目的と方針

・第1回協議会で決定した次の4つの方針に基づいて、学校参観・中間評価の説明等から、学校の方向性(現状)に関して感じるところ・思うところ・考えるところを具体的に対話・討議し、学校の中間評価に対して学校運営協議会としてフィードバックすることを見出す。

- 自分も子どもを中心において関わろう(委員自身の倫理観)
- “失敗を許容しながら”という学校のあり方に注目しよう(評価の中核視点1)
- 学びの結果ではなく“途中”にどのような「自ら伸びる」の学びが起こっているに注目しよう(評価の中核視点2)
- “学びの集中感・緊張感”がどのように生み出され高まっていっているかに注目しよう(評価の中核視点3)

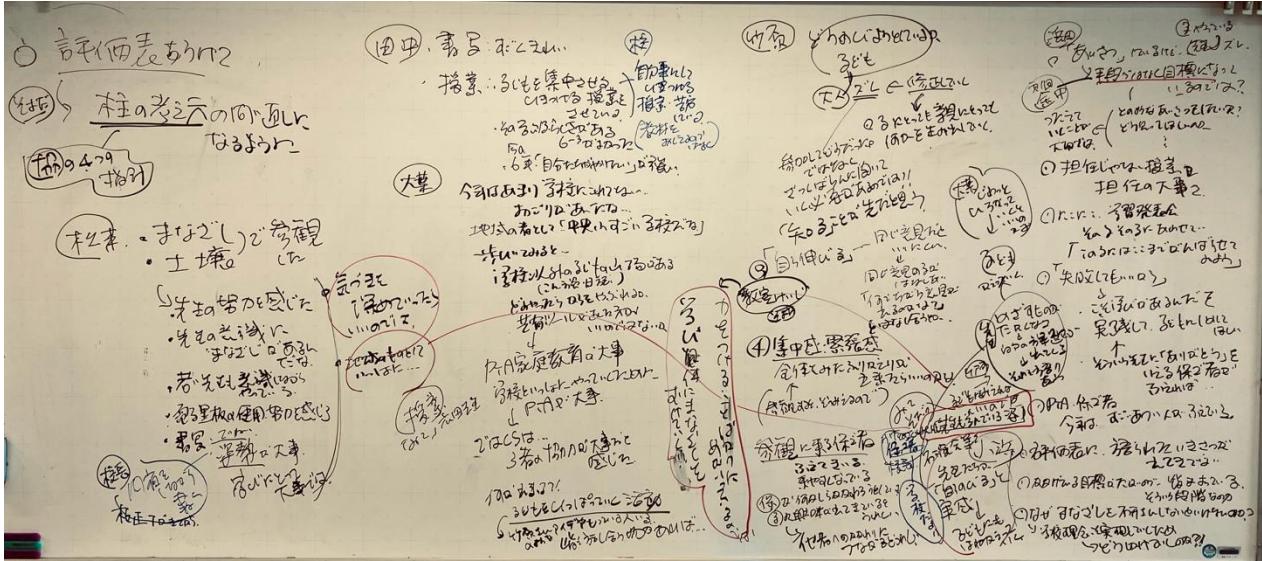
☆議長の選出

- ・小濱委員長

☆第2回協議会のねらい

第1回協議会で決定した次の4つの方針（上記）に基づき対話・議論することが、学校の中間評価の考察を深め今年度の経営方針の省察・刷新に向かう助けになることをねらう。

(1)熟議全体のけしき



(2)学校参観をし、中間評価を聴いて、学校の現状がどう見えたか

(松本) 「まなざし」「土壤」で参観したが…)

- 先生の意識に「まなざし」があるんだなと、先生方の努力を感じた。
- 若い先生も意識しながらやっているなと見えた。
- 電子黒板の使用には、先生方の努力を感じる。
- 書写は丁寧だった。また、姿勢が大事だと思ったが、これは学びにとっても大事では？
- 気づきを深めて行ったらよいと思う。地域の者として、一緒に深めていけたらと思う。

(田中) (松本委員の参観に繋げて…)

- 書写は、すごくきれいだった。
- 授業は、子どもを集中させる・引きつける授業をされている。
- (どの学級も) その学級らしさがあるが、特に6年3組がよかったです。
- 今年の6年生は、「自分たちがやりたい！」が強い。

(大場) (中間評価を読み込んで来て…)

- 今年はあまり学校に来れていない。(それ故、学校を知っていると思っていたことに対して) おごりがあったなと思う。地域の者として学校を見ると、「中央小は、すごい学校だな」と思う。
- 一步引いて見てみると…学校以外にも子ども山場がある。先生は懇談や日記から知ることができると思うが、どうやったら殻が破れるか、(そういうことを考えるための) 先生方が共有できるツールがあつたらいのではないか。
- また、家庭教育が大事。学校と一緒にやっていくために、PTAが大事なのだと思う。では、CSは?と考えると、(学校・PTA・CSの) 三者の協力が大事だと思う。
- では、何ができるだろう?と考えると、子どもを引っ張っていく活動など、竹原さんのようにアイデアを持っている人はいるので、話し合う場があれば…と思う。

(竹原) (今年度の4つの方針を観点として…)

- ・子どもがどのように伸びようとしているか、子どもと大人（の見方）にはズレがある。そのズレは、何かを生み出していくなかで修正されていくと思うのだが、（活動して）「参加してどうだったか」と（結果を）聞くのではなく、ざっくばらんに聞いていく必要があると思う。「知ること」が先だと思う。
- ・「自ら伸びる」というが、話し合いも、同じ意見だと言いやさいだろう。同じ意見の人が話し合うなかで、「なんで違う意見が出るのかな」というようになるのではないか。
- ・参観してみると、集中感・緊張感があるように見えるので、振り返りをするとき、（自分だけのことを振り返りのではなく）全体を見て振り返るといいのではないか。
- ・保護者が、何かしら関わろうとしている（そういう保護者が増えてきた）が、子どもに関心が出てきているのであれば、嬉しい。それが、他者へのかかわりにつながると嬉しい。

(濱田) (取組みの方向性に関して…)

- ・「あいさつ」しているけれど、手段ではなく「あいさつ」（すること・させること）が目的になっているのではないか。どのような挨拶をしてほしいのか、どう思ってほしいのか、伝えていくことが大切のでは？
- ・わが子の担任ではない学級の授業をみて、担任の大しさがわかる。
- ・にこにこ学級の学習発表会の練習を観て、その子その子に合わせて、「この子には、ここまで頑張らせてみよう」「失敗してもいいから」と支援していた。そこにこそ学びがあるんだということを実践して子どもに示してほしい。また、そういう先生に「ありがとう」を言える保護者が増えていくとよいと思う。
- ・PTA・保護者ということで言えば、今年は、すごく熱い人が増えている。

(小濱) (経営計画・中間評価を通して学校の現状と方向性に関して…)

- ・評価表には、今日（主任・主幹・教頭・校長から）語られた経緯（いきさつ）が出てきていない。
- ・経営計画に掲げる目標が高いので、皆迷っている…（現状は）そういう段階なのではないか。
- ・なぜ、まなざしの研鑽をしないといけないのか？学校の理念を実現していくために、どう仕掛けていくのか？先生方が「自ら伸びる」を実感すると、それが子どもにも跳ね返っていく。

(3) 学校経営に対する示唆

(竹原) (小濱委員を受けて…)

- ・先生方も学んでいる姿が、子どもにも見えればいいのではないか。
- ・目指すものが高くなると、自分の課題が見えてくる。それを語り合う。それが子どもにも返っていく。そういう学びの姿が、子どもにも（保護者やCSの）大人にも見えるようにして、（互いが）見て育つ。
(←学校だよりには、教師の問い合わせの姿を読んでもらえるようにしている。)

(大場) (竹原委員を受けて…)

- ・（そういう学びの関わりが）じわっと、拡がっていくといいのではないか。

(曾余田) (小濱委員・竹原委員の先生方の課題という語りを受けて…)

- ・参観して教室掲示を観て、中間評価の記述や説明を聴いていると、まなざしの研鑽ということでいえば、先生方は、力をつけることばかりに目を向けているのではないか。
- ・「力がつく」というのは、学びの結果であって、その結果を出すために学ばせるというのは、先に濱田委員が語った手段と目的が逆転しているのではないか。力をつけるのは、教師一子ども関係で言えば、子ども自身がすること（管理職一教員の関係で言えば、その教員自身がすること）。教師が支援することは、力をつけることそのものではなく、力がついていくような学びを子どもたちが体験することではないか。

- ・つまり、力をどうつけるか（結果）を得るために“まなざし”を向けるのではなく、子どもがどう学ぼうとしているか、学び自体（途中）にもっと“まなざし”を向けるという方向で研鑽していくことが大切ではないか。
- ・そうすれば、松本委員が語ったように「気づきを深めていく」ということに繋がっていくと思う。

（4）熟議を踏まえて学校へ提言すること

学校の中間評価の考察を深め今年度の経営方針の省察・刷新に向けて、次の3点を提言する。

- ① 学校の自己評価で「お互いの思いを吐露し合える職員室の雰囲気を」と語られていたことに繋がると思うが、吐露し合うなかに、今一度「なぜ、まなざしの研鑽なのか」を教職員で語り合い、後半の取組みの基盤となるよう、一人ひとりの教職員の「まなざしの研鑽」に対する切実感・必要感を問い合わせて欲しい。
- ② その際、学校の自己評価で語られた教育観の問い合わせとして、“まなざし”的な向け方（結果ではなく、結果をねらってどう学ぼうとしているか）を問い合わせて欲しい。
- ③ こうした教職員の課題を追究する学ぶ姿から、教職員同士はもとより、子どもや保護者・CSの大人も、互い学び合えるような仕掛けとして、もっと先生方の学ぶ姿が見えるように PTA・CSとも工夫し合って欲しい。

以上のこととは、学校運営協議会としても、どのように支援し、かかわり合っていけるか、問い合わせていきたい。